

七小校長室便り

開校51年目

国立市立国立第七小学校

校長室便り最終号 令和6年(2024年)3月21日

令和5年度も修了式と卒業式を残すばかりです。

春分の日が過ぎ、いよいよ春本番となりますが、学校においては、別れと旅立ちの季節となります。桜の花も開花の時となり、進級や進学を迎える各学年を祝うかのように、咲き始めていきます。

明日の3月22日(金)は、令和5年度の修了式を行います。

各学年が、それぞれの学年で学んだことや身に付けたことを確認し、次の学年に向かうための大切な節目の時となります。本校の児童にも節目の大切さを話したことがあります。内容としては、節目があるからこそ、人は丈夫になれる、というものです。

植物の竹は、幹がまっすぐに伸びていくのが特徴です。しかし、竹に節がなかったとしたら、風や雨等によって曲がってしまいます。竹は、まっすぐと伸びていくことで、自然環境の中で生息してきたわけですが、まっすぐに伸びるために成長の速度を落としてでも節目を作り、節目を強くすることで、しなやかに高く、そして、まっすぐに伸びることができています。

私たちも同じで、それぞれの人生の分岐点や原点という節目で強くて丈夫な学びや思いがあることで、次のステップの確かな土台となります。各学年の子供たちの未来のためには、明日の節目の修了式は、とても大切な日であり、一年間頑張った証明の日となります。共々に、子供たちの学びと成長を認め、褒めてあげてくださればと思います。

そして、3月25日(月)は、6年生が本校の第51回目となる卒業式を迎え、卒業生として旅立つ大切で大きな節目の日となります。

この6年間の小学校生活では、コロナ禍という大きな波を乗り越えながら、国立第七小学校の50周年の時を支えました。今年度は、開校51年目として、新しい国立第七小学校をつくっていくためのスタートの年でもあり、研究発表会を目指し、心の教育の道徳の授業を通して、担任と一緒に高学年のリーダーとしての学びの姿を見せてくれました。

先日、卒業生が書いた卒業文集を見せてもらいましたが、どの子供たちも、自分のこれまでのことをしっかりと振り返り、自分の成長したところや未来を見据えていこうとするところなど、思い思いに自分の言葉で書かれてありました。

読み終えたときの感動は、じわじわと心に広がるとても心地良いものでした。

この国立第七小学校は、互いの心を大切に、素直に、懸命に頑張る子供たちで支えられていることを改めて実感し、更にも増して、高みを目指していきたく思いを固めたところです。

卒業式でも、思いを込めて式辞をしますが、この場でも感謝の思いを伝えたいと思います。

『令和5年度の卒業生の皆さん。ご卒業、おめでとうございます。』

未来は君たちのものです。威風堂々と人生を歩いていってください。』

本校の子供たちは、自身の課題に向かって懸命に頑張る子供たちです。私たち大人も、子供に負けないように懸命に日々を過ごしていきたいと思います。

本校を去られる先生方を紹介いたします。

3月21日(木)の本日、教員の離任式を行いました。令和5年度をもって、国立第七小学校から、異動される先生方と退職をされる先生方に、全校児童の前で思いを語っていただきました。コロナ禍の中では、対面形式ではなくオンラインによる形で行いましたが、制限も緩やかになった今年度は、対面形式で行いました。

これまで、本校の教育活動に尽力いただいた先生方に、この場を借りて心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

それぞれの環境で、お元気でご活躍ください。

ありがとうございました！



来年度の取組について その3

今年度、学校からの情報発信として、学校だよりや校長室便り、PTAからのお知らせについては、すぐーる配信とさせていただきます。紙ベースの配布にも利点はありますが、教員の働き方改革やペーパーレス化によるSDGs（持続可能な開発目標）への取組の1つでもあり、私たちのできることとして、より良い環境整備を目指して取り組んでいます。

○学校だよりについて

来年度においては、学校だよりについても、内容を整理し、保護者や地域の方々に学校の取組や状況について、より分かりやすいものにしていくことや学年便りと連動したものを目指した内容にしてまいります。

これまでもお知らせしている通りに、『改善するところは改善し、学校にとって良いものとして判断したものは、残していくようにしているところ』ですので、来年度の学校だよりについては、保護者や地域の皆様に、ご覧になっていただき、学校評価等でご意見やご感想をいただければと考えております。4月からの学校だよりを、改めまして、よろしく願いいたします。

○来年度実施の展覧会について

2年に1度実施しています文化的行事としての展覧会ですが、前回は、開校50周年の年に周年記念行事として実施いたしました。多くの方にご来校いただき、とても素晴らしかった、もっと見たかった等、お褒めの言葉をいただきました。私たちとしても、とても励みになり、次回の開催に向けて、検討してまいりました。

来年度、展覧会の年に際して検討をした結果、ご覧いただく日数を木曜日から土曜日にかけての3日間の開催として、多くの方にご覧いただけるように設定いたしました。学校行事においては、その年にご覧いただけるものは、その年でしか見ることができないものばかりです。子供たちの頑張りを多くの方に見ていただき、子供たちに励ましの言葉やお褒めの言葉をいただくことで、子供たちはもちろんのこと、私たち教員の頑張りも増すこととなります。

令和5年度のこの一年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

これからも、国立第七小学校は、保護者や地域の皆様と協働し、より良い教育活動になるよう努めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力の程、よろしく願いいたします。

【校長のつぶやき】

今年度は、この校長室便りをもちまして、最終号となります。

この1年間、ご覧いただき、ありがとうございました。心から御礼を申し上げます。来年度も、引き続き、校長室便りを発信してまいりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

3月のこの時期は、今年度の納めと来年度の始まりに向けて、様々に思い悩む時期でもあります。校長職となって、来年度で7年目を迎えますが、毎年、この年度末は、何度迎えても状況が違っていることに驚くばかりです。違っていることが当たり前かもしれませんが、当たり前なことは、この世の中にはないと考えると、やはり自分自身の更なる成長が求められているのだと思えてなりません。平成3年度から教員を始めましたので、来年度で、33年目の年を迎えますが、教員という職業は、子供たちの成長のために、そして、子供たちの成長が日々進んでいくのと同じように教員自身の成長が必要となっているのだと、これまでの教員生活を振り返って思います。教員という仕事は、素晴らしい仕事だからこそ、校長である私自身が成長の歩みを止めないように、33年目の年を迎えていきたいと思えます。

また、今年度は、私にとっても大きな節目の年となりました。きっと一生の中で忘れることができない大きな、大きな一年でした。これまで私を支えていただいた方々とたくさんのお別れをした年となりました。大学の恩師もそのお一人です。でも悲しみよりも、どうやって前に向かっていこうかというポジティブな気持ちの方が強いのは、支えていただいた方々の思いが、しっかりと自分の中に息づいているからだとも思います。

『日々、新たにして、日に日に新たな日』。大学の恩師に教えていただいた言葉です。つまりは、簡単に言うと、明日の自分は、今日の自分よりも成長していなさい、という内容です。今の自分が恩師の言葉を大切にしているように、教員は、その子供の人生に大きく影響をしていくことは、間違いありません。目の前の子供たちは、私たちのかかわりの中で生きています。「かかわりとつながり」を大切に、国立第七小学校の校長として努めてまいります。